

病弱教育専門性の分類（H29 年度版）

専門性カテゴリ	教員が身につけたい専門性
1. 学習・授業関係（教育課程）	1. 各教科、自立活動等の指導力・障害それぞれの実態に応じた教科指導力 2. 病気病状に合わせた指導 3. 有利さを活かした指導 4. 体験活動・経験の充実（移動美術館・外部講師などの派遣事業） 5. 見学旅行、校外学習計画、実行 6. 学習指導要領の理解と学習内容の精選・学習カリキュラム 7. 身体の状態に配慮した授業づくり 8. 本校児童生徒の実態に応じた道德教育 9. 病状等を含めた心理的な課題を視野に入れた授業づくり 10. 学ぶ喜び、協働することの良さを感じさせる指導 11. 個にあった教材・教具 教材教具の開発・工夫 12. 学習方法・配慮、体力を消耗しない学習方法、病状を踏まえた学習展開・指導方法・配慮 13. コミュニケーションの力を育む指導 14. 自立活動の理解・充実 15. 重度重複の児童生徒に関する知識・指導力
2. 学習環境・支援機器・ICT	1. 障害の特性・個に合わせた環境整備・学習環境の構築 2. ICTの活用 3. 個に合った支援方法の工夫（できることとしたいことの見極め） 4. 補助的手段の知識 5. 支援機器についての知識理解 6. コミュニケーション手段の工夫・指導 7. PCを使った授業の工夫・ICTの活用術（教科書の電子化） 8. 個々の実態に合った教材の工夫や補助具の充実 9. ユニバーサルデザイン
3. キャリア教育・進路・連携	1. 個に応じたキャリア発達の支援 2. 病気の進行も含めた進路指導（病気の進行、社会、本人、保護者の願い、本人の能力を含めた） 3. 将来像の理解 4. 保護者、病院、関係機関の連携 5. 保護者のサポート 6. 病院・福祉・関係機関と連携した教育・関係機関とつながる力・ネットワーク（校外への発信活動） 7. ICFの理解と活用 8. 卒業後の生活・保護者、病院（進路を具体的にイメージしていくこと）社会参加している成人患者の事例 9. 学校連携の進路選択 10. 小中高のつながりある指導 11. 卒後の進路支援
4. 病気理解・病気による特性の理解	1. 病気・病状・予後の理解（車いすや姿勢、呼吸に関する知識 病弱教育に関する知識） 2. 障害の正しい理解 3. 病状を含めた実態把握（運動や手指機能・優位な機能の把握・生育歴理解） 4. 病気・病状への対応の方法を知っている 5. 体調管理の知識・健康な体の知識 6. 筋ジストロフィー特有の特性の理解 7. 人と関わる意欲、コミュニケーションの力を育む指導 8. リスク管理 9. 体調管理・体調への配慮・体調に合わせた時間配分・介助の方法 10. 無理せず休む・体調の変化に気づく
5. 心理的な配慮・心のケア・QOL	1. 喪失感や不安へのケア・サポート・心理面へのアプローチ 2. 子どもの心に寄り添う（悩み、不安） 3. アンバランスな心理的な発達の理解（一部の自尊感情は高いが一部は低い） 4. 自己肯定感、自己有用感を高める指導（スポーツ、ハロウィック・スティックスports、資格取得など 外部評価の活用、できることを増やす、受け身にならず主体性を育てる） 5. 児童生徒の心理面に配慮した指導 6. QOLを高める工夫（病棟生活、余暇活動を充実させるための指導 7. 将来への希望・やりがい・生きがい

